

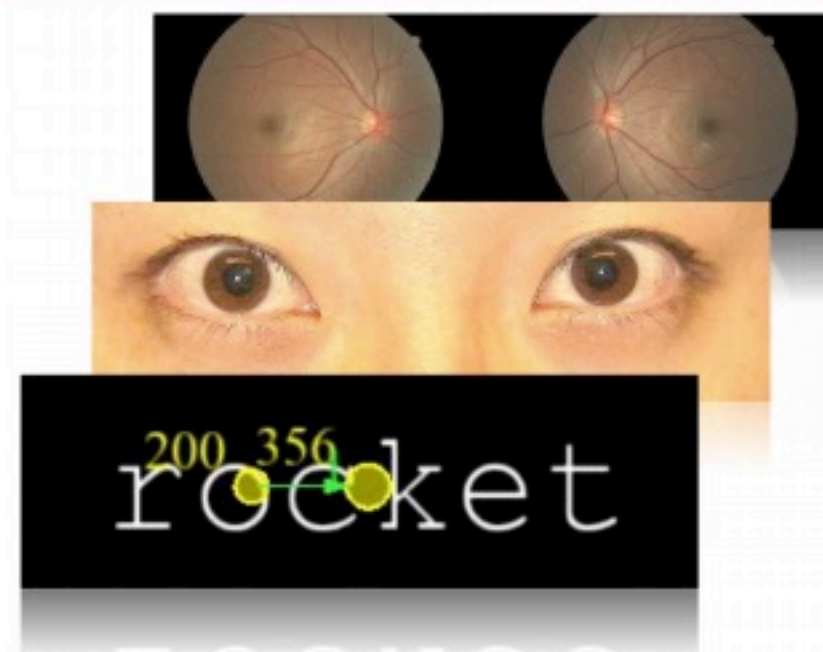
心理言語学者が飛ばす rocket

分野・専門名：英語教育学

英語教育分野と聞くと「英語能力向上のために効果的な教育手法を探る」というイメージを持っている方が多いかと思われそうですが、そもそも英語能力、言語能力とは何なのかと、あれこれ悩みながら実験を重ねることが心理言語学者である私のお仕事です。例として、10秒前に rocket を飛ばしてみました。私が紙の上に提示した rocket は、意味を持たない刺激として、読者である皆さんの目の瞳孔へ向かって飛び立ち、眼底から視神経に運ばれて、数百ミリ秒で皆さんの頭の中の“宇宙”に到達したはずで、その rocket の速度はそれ自体の特性（例：フォントサイズ）に影響されますが、興味深いことに、“宇宙”の特性によっても影響され、それは目の動きに現れます。rocket のような1つの単語のみを認識する場合、眼は2点で情報を集めることが多いようです。私の場合は、200ミリ秒と356ミリ秒の2回に分けて、rocket の情報が運ばれました（写真）。この第一注視点の200ミリ秒は北京五輪男子100m決勝の優勝者ポルト選手と準優勝者の差に等しいです。驚くべきことに、この1回目の情報収集です。

2018年1月30日

に（私たちが意識的に rocket と認識する前に）単語をどれだけ頻繁に見聞きしたかという情報（例えば、rocket は spaghetti や athlete より頻繁に使われているという情報）を私たちの眼が活用していることがわかっています。“宇宙”に到達した rocket はさらに、類似した単語（例：pocket, ticket, ロケット）にも働きかけます。rocket という単語一つを目にしただけで、少なくともこれだけの事が起きているのですから、それを文中、ストーリー中で理解することはかなり複雑で興味深いプロセスです。ああ、しかし、残念なことに・・・この余白はそれを記すにはあまりにも狭すぎます・・・詳しくは大学で！（三輪 晃司・准教授）



（写真下から、私の眼球運動、私の眼、私の眼底）